

大学生テニスプレーヤーの実態調査 A Study on the Actual Condition of Collegiate Tennis Players

1K03A180-1

氏名 福井久美

指導教員 主査 加藤清忠 先生 副査 坂井利郎 先生

緒言

はじめに、近年のテニス界はナダル、シャラポワといった若手選手の活躍が目立っている。二人共、現在は世界ランク 2 位であるが、今後トップに躍り出る期待がかかっている。また、日本では添田、杉山選手が日本テニス界を引っ張っている。

このようなトップ選手から世界、日本ともにトップ選手は大学卒業後からではなく、ジュニア期に有名な指導者をつけ参戦していると推測した。選手は、大学進学ではなく高校卒業後プロに転向する者、指導者になる者といったように様々なスタイルでテニスとつながりを持っている。では、大学生の選手はどのような過去を経て大学進学に進み、今後テニスと関わっていくのか。また、大学生のテニス生活とはどういったものか。現在の大学生の実態について疑問を抱いた。

そこで、大学生テニスプレーヤーの実態を調査し、大学テニス界のトップを誇る本校の現状と問題点を明らかにしていく。

方法

アンケートを早稲田大学庭球部員 43 名（男子 18 名、女子 25 名）に実施した。アンケートは大きく「中学」、「高校」、「大学」、「大学卒業後」の 4 つの質問項目に分かれている。質問内容は、まず、テニスの開始年齢や動機から始まり、次に、練習場所、練習頻度、技術、体力、目標としている大会名や、その戦績に対する自己評価などである。そして、大学に入りテニス以外において成長したことや、現段階で考えている大学卒業後の進路も調査項目に入っている。

結果

テニスは、両親から影響を受け、平均 9 ～ 10 歳に始めていた。中学時代は、部活動に所属する者の男子が 2.7、女子 4.5 倍がテニスクラブに所属し、1 週間あたり平均 4 回・2 時間を目安に練習をしていた。その結果、男子は半数以上が全国大会に出場し、女子はベスト 16 以上の結果を残していた。

高校では、女子は部活に所属する者が増加していた。また、練習頻度が 1 週間あたり全体平均 6 回・3 時間へと変化し、6 名が全国大会優勝を経験していた。

大学では、親元を離れ、一人暮らしをしていた。部活では週 6 回・平日 3 時間、休日 5 時間練習をしているが、それ以外の自主練は、全体の 3.6 割が空いた時間に行っていた。その際、主にラ

リーや球出しを行い、最も得意ショットを練習する者が少なかった。体力、技術ともに高校と大学時の差が見られなかった。体力面では、男女共にパワー、持久力の値が高く、技術面ではストロークを得意としていた。本校に入部して、テニスにおいてはプレーの幅が広がったという意見が多かった。また、部活動においては特に、下級生の仕事を通じて自立心や忍耐力が養われていた。同期の部員以外に先輩・後輩と接することで、周りへの気配りや仲間と結束する団体戦の素晴らしさを感じていた。

大学卒業後の進路は、男子 2 名、女子 3 名がプロ転向を考えていた。レベル関係なくテニス部がある企業への就職が男子 4 名、女子 8 名、また一般企業が男子 10 名、女子 9 名おり社会人になってもテニスを続ける者と続けない者が女子は同じ値であった。卒業後は、男女共テニスは趣味として考えていた。

考察

半数以上の者が目標にしていた大会に対し大学では、「達成出来なかった」という自己評価をしていた。これは、二段構えの目標を持っていたためと、非現実的な目標設定を行っていたからだと考える。まず、二段構えの目標というのは、「目標は優勝だけど、ベスト 4 には入りたい」という気持ちの持ち方である。目標というのは単に自分が理想とする到達点を目指すだけではなく、脳から指令が出され自分の行動をその方向に導く働きがあるため、二段構えの目標は「一体どちらの目標に向かえばいいのか」という迷いが生じる。また、目標には自分が立てた目標と、指導者など自分以外の人間が立てた目標とがあり、時に自分の中でも今の目標がどちらによるものか分からなくなるケースがある。目標が曖昧で他人の設定に惑わされると困難な目標より簡単な目標を選択してしまう。そして、目標に向かって突き進むことも大切であるが、あまりにも自分のレベルより上の目標を立ててしまったため達成出来なかったという回答があった。人間は目標を達成するために常に現実と目標のズレを見つけ出し、そのズレを修正するべく脳から指令を出しているのだが、非現実的な目標設定はズレが大きすぎて脳で処理しきれず、具体的な指令が出せないという結果を招いてしまう。大学生になると、高校生までのように指導者が手を差し伸べてくれるわけではなく全てが自己管理である。目標は、自分が立てた 1 つだけ設定し、現実感を持てるレベルにしておくことが達成するための道であると考えられる。